

事例番号 142 「ONSEN ツーリズム」でまちの内外交流促進(大分県別府市)

1. 背景

別府市は大分県の東部のほぼ中央に位置する温泉で全国的に有名なまちである。市の南側は高崎山(猿で有名)を間に大分市と接し、西側は由布岳、鶴見岳など火山帯である阿蘇連山に半円形に囲まれている。地勢は西から東に向かってなだらかに下る扇状地であり、市の東側には別府湾、瀬戸内海が広がる。このような地勢であるため、別府市は山、高原、海、及び「別府八湯」と呼ばれる温泉群の多様で豊かな風景を持つ。別府市の内成棚田は 1999 年に農林水産省が指定した棚田百選に選ばれており、湯けむり風景は NHK が 2001 年に実施した「21 世紀に残したい日本の風景」で全国第 2 位に選ばれている。別府市の年間の観光客数は 1,100 万人を超えている。

別府八湯の湧出量は世界第 2 位であり、泉源数(約 3,000)は世界第 1 位である。八湯は大正時代に 8 町村が合併し別府市になったことに由来するものであり、1996(平成 8)年頃から 8 地区はそれぞれの文化、歴史を良い意味で競って PR している。別府の温泉の歴史は古く、「豊後風土記」にはすでに赤湯泉、玖倍理湯井等の地名が見られる。荘園時代には新開地となり、その開墾、領有のための免符である「別符」が「別府」と書かれるようになって今日の地名になったと言われている。鎌倉時代以降は大友氏の領地となったが、江戸時代には幕府の直轄領(天領)となって湯治場として栄えた(貝原益軒の「豊国紀行」等に記録されている)。

明治以降は別府町として交通機関の整備等を背景に発展し、大正に入る頃には旅館街や観光施設が整備されて観光地として全国的に有名になった。1924(大正 13)年に別府市となり、その後、戦災にもあわずに観光地として発展してきた。戦後は 1950(昭和 25)年に「別府国際観光温泉文化都市建設法」が定められ、鉄道、道路、港湾等の交通網の整備により発展してきた。

2000(平成 12)年には別府市の国際観光温泉文化都市という性格にふさわしく、留学生が学生の半数近くを占める「立命館アジア太平洋大学」が開学した。別府市の人口は 2000(平成 12)年国勢調査では約 12 万 7 千人であったが、市内には約 2,500 人の留学生がいることから、現在の別府市は市民 50 人に対し 1 人の留学生が暮らす国際的な都市である。大分県はもともと留学生の占める人口比率が全国第 2 位であるが、市町村単位で見ると別府市は全国第 1 位になった。



別府市の位置 (資料:別府市ホームページ)



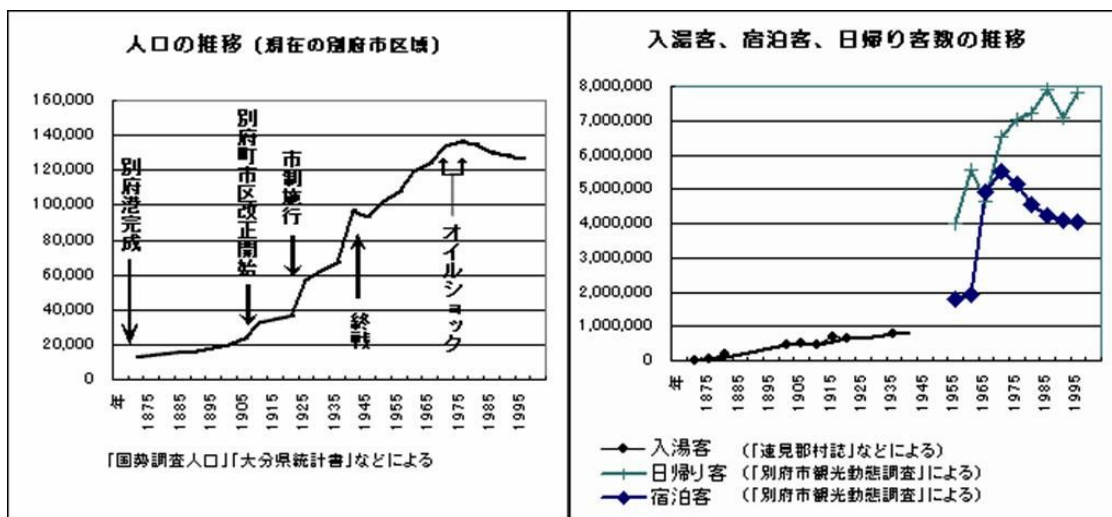
別府温泉湯煙風景（資料：以下写真は別府市提供）



「俳句を通じた鉄輪町づくり事業」(鉄輪愛耐会)が倉田紘文の記念句碑を「湯けむり展望台」に設置

このように発展してきている別府市ではあるが、主要産業である観光産業について見ると、1970年頃までは団体旅行を中心とした旅行形態に対応した旅館・ホテルで宿泊者を伸ばしてきたものの、その後は個人、小グループの宿泊客や日帰り客の増加というニーズの変化に十分対応しきれず(交通機関の整備により日帰り客が増えたという事情もあった)、ピーク時に900軒あった温泉旅館は2000年末には358軒にまで減少した。別府市は温泉を中心とした観光地であるだけにそのまちへの影響は著しく、中心部はシャッター通りと化してきた。それに至る事情は以下のように整理できる。

- ① 関西汽船の乗り場が国際観光港に移転(1967年)
- ② 生活様式の変化
(団体での1泊周遊型から個人での滞在型(連泊)に移行)
(閉じた娯楽ではなくまちに開かれた魅力が求められるようになっていく)
- ③ 温泉旅館の内向き傾向の経営
(客の囲い込み、施設の巨大化・多機能化、レジャー施設・土産物店の館内取り込み)
(まちづくりの視点の欠如)
- ④ 商店街から土産物店等が徐々に消え、スナック街に変化
- ⑤ 長期不況による客の急減
- ⑥ 商店街の歯抜け状態の悪化
- ⑦ 人口の減少、高齢化



(資料:別府市)

こうした中で、1996年(平成8年)頃に、市民や民間企業を中心に、別府市が持つ多種多様な地域資源に着目して地域を見つめ直す活動が開始された。地域の人々が利用し愛着を持つ共同温泉や老舗などを訪ね歩く「路地裏散歩」「町歩きツアー」が実施されたり、かつて繁栄時に活躍した「流し演奏」や最高級のマッサージ、エステ技術、温泉名人を目指す温泉道などの温泉文化関連の多様な地域資源を再発掘して利用されたりしてきた。そして、地域の人々や観光に訪れた人々と一緒にまち歩きを楽しむことなどを通じて新しいまちの魅力が発見され、感動が広がり、次第に

まちを元気にする効果も出るようになってきた。

一方、別府市では、かつて米軍キャンプを中心にジャズやポップスのライブがまちのいたる所で楽しめたこと、それが癒しとしての「音の泉」であったことを振り返り、「温泉」と「音泉」とを意味する「ONSEN」を核とする「ONSEN ツーリズム」のまちづくりを推進している。それは別府の特性を生かした文化の演出、環境づくり、市場開拓などを総合する観光振興策・まち再生策に公共・民間協働で取り組むものである。本稿ではその概要を紹介する。



別府市の市街地図（資料：別府市ホームページ）

2. 目標

別府市総合計画(計画期間:1999～2010 年度)は別府市の将来像を「アジアの未来をひらく湯けむりのまち」とし、基本理念を「住む人も訪れる人も、いきいきと輝く、豊かな生活文化交流圏の創造」とした。そして次の6つの基本目標を掲げている。

- ① 感動とぬくもりに出会う温泉リゾートのまち
- ② 学術文化を創造し、人を育む学びのまち
- ③ 健康で、安心して暮らせる福祉のまち
- ④ アジアと結び、活気あふれる交流のまち
- ⑤ 自然と共生し快適で美しいまち
- ⑥ 力をあわせ、共にきずく連帯のまち

また、「別府市地域再生計画」(2004年6月に第1回内閣総理大臣認定)は、「世界の健康回復都市『別府』きれい・元気づくり(ONSEN ツーリズム)」を目標とし、以下の基本方針を掲げている。

- ① 健康サービス産業の活性化
(別府ウエルネスコンソーシアム、マッサージ産業の集積)
- ② 国際化・アジアとの連携による活性化
(日本の湯治文化、旅館文化の再発見、留学生の縁を活かした国際観光戦略)
- ③ スポーツ・コンベンションによる活性化
(スポーツキャンプ・コンベンション・映画ロケ等の招致、音楽のまちづくり)
- ④ 夜のにぎわい拠点づくりによる活性化
(小粋な夜の遊び文化、夜のにぎわい創出、安全・安心の夜のまちづくり)

2004年9月に策定された別府市国土利用計画は、「地域の自然的、社会的、経済的、歴史的及び文化的諸条件に配慮して、長期にわたって、健康で文化的な生活環境の確保と、市土の均衡ある発展を図ること」を基本理念とし、「このまちに住む人、訪れる人を永遠に魅了しつづけ、誰もが生き生きと希望をもって個性的で豊かな生活を送ることができるまちづくりを進め、自然と共生する調和のとれた持続可能な市土の利用を行うこと」が重要であるとしている。そして将来像を「美しい山と海に抱かれた国際観光温泉文化都市の創造」とし、次の7つの具体的目標を掲げた。

- ① 世界に誇る温泉資源をはぐくむ緑豊かな市土
- ② 温泉や文化を活かした都市空間を築く市土
- ③ アジアとの交流を支える市土
- ④ 山・都市・海の自然と共生する持続可能な市土
- ⑤ 湯けむりがはえる美しくデザインされた市土
- ⑥ 市民や観光客がともに安全で安心できる市土
- ⑦ 観光都市の特性を活かした農業・林業・水産業をはぐくむ市土

さらに、観光推進戦略会議の提言を受けて策定された「観光推進戦略計画」は、基本戦略として以下の4つの「ONSEN ツーリズム」推進の目標を掲げている。

- ① 別府八湯文化の発掘と湯治場の再構築
- ② 温泉文化の確立と情報発信
- ③ 温泉資源の総合的利活用の促進
- ④ 歴史文化の発掘集約とまちあるきルートの構築・情報発信

3. 取り組みの体制

観光振興策を検討する組織として市が「別府観光推進戦略会議」を設けている。一方、民間のさまざまな組織が官民協働で連携し、情報を相互に共有しながらまちづくりの活動を展開している。民間組織および官民協働の組織の主なものとしては以下のものがある。

(1) 「別府観光推進戦略会議」

別府観光の推進を図るため、市が2003年10月に「別府観光推進戦略会議」(座長:立命館アジア太平洋大学小方昌勝教授)を設置した。市内外の専門家、観光関係者、NPO代表者等がメンバーである。戦略会議は、中長期的及び短期的・実践的な戦略並びに別府市の観光振興の指針となるような、まちづくりを基本とした「観光戦略」を提言することを目的としており、見る観光から脱却し、人との交流や体験を志向するニーズに適合した、新たな総合観光産業の振興を図ることを目指している。

戦略会議は、別府の新しい観光振興の基本になる戦略についての市長からの諮問を受け、2004年9月28日に「ONSEN ツーリズム」の振興を基本とする新しい観光振興策を市長に答申した。都市の活性化を促進するための「ツーリズム振興」の観点から、基本的には別府市の産業基盤を構成するあらゆる産業をツーリズム振興の資源として捉えている。

(2) 「別府八湯メーリングリスト」

1997年に「湯の街べっふ」に関心のある有志によりはじめられたメーリングリストである。「湯の街べっふ」の情報交換の場を提供することを目的としている。会員は約1,000人で、別府市民が中心であるが、他の地域にも広く分布している。活動の成果は「別府八湯辞書」としてホームページ上で公表している。

(3) 「別府八湯竹瓦倶楽部」

1993年に「観光産業経営研究会」(1969年設立の若手経営者の団体)が創立25周年を記念して『別府近代建築史、地霊 ゲニウス・ロキ』を発行し、市内の近代建築を紹介した。また、1998年に「よみがえるか竹瓦温泉—別府温泉再生の道—」と題した別府八湯地域づくりフォーラムを開催し、竹瓦温泉(別府温泉の中心)の歴史的木造建築物を活かしたまち再生策を提言した。

このフォーラムから大きな刺激を受けた竹瓦温泉地区の自治会長、通り会長、旅館業者、地域住民等約20人が1998年12月に「別府八湯竹瓦倶楽部」を設立した。会の目的は、竹瓦温泉の保存を行うと同時に、倶楽部会員・地域住民及び観光客らの交流を図り、竹瓦温泉界隈を「温かな

人情味溢れる魅力的で暮らしやすい町」にすることである。

会員は別府温泉のシンボル「竹瓦温泉」とその界隈の町を愛する者約 350～400 名(かなり流動的)で構成されている。会報を 1999 年から発行し、ホームページ上でも公開している。また、イベント等により会員、地域住民、観光客らの交流を促進している。まちづくりに関するハード事業の提言も行っており、竹瓦地区のまちづくりにおける中心的な組織になっている。2002 年度の「地域づくり総務大臣表彰式」で「地域づくり団体賞」を受賞した。別府八湯ウォーク竹瓦かいわい路地裏散歩」の主催団体であり、これをきっかけに別府八湯ウォークは市内全域に拡大していき、別府八湯を活かした様々なまちづくり活動が活発に展開していった。現在も継続的に活躍中である。

(4) 「泉都まちづくりネットワーク(泉まちネット)」

「泉都まちづくりネットワーク」(通称:泉まちネット)は市が参加グループを広く募集して 2003 年に立ち上げた組織である。立ち上げるに先立ち、市は学識経験者や地域のまちづくりリーダー等と「ネットワーク準備会」を開催して議論を重ね、この準備会の呼びかけで参加グループを募った。

「泉まちネット」は、まちづくりに取り組む別府市内のグループの間での連携、交流、研さんの場として、また、民間と行政とが協働してまちづくりを進める場として機能することを目的としており、市民主体で運営されている(事務局は別府市 ONSEN ツーリズム局 観光まちづくり室)。現在の参加団体数は 233 団体個人で別府市が「泉まちネット」事務局をサポートしている。「泉まちネット」は以下を目的として活動している。

- ① 各まちづくりグループの持つ情報の共有化を通し、共通の認識にたち、互いに協力できる体制の構築
- ② まちづくりグループの自立及び強化の促進
- ③ まちづくりリーダーとなる人材の育成
- ④ 次世代を担うこども達への橋渡し



竹瓦小路

4. 具体策

(1) イベント

① 「別府八湯ウォーク」

「別府八湯竹瓦倶楽部」が旧別府の街並みを巡るウォーキングツアーを 1999 年に開始した。そのきっかけは、竹瓦温泉地区にある平野資料館の館長でもある平野芳弘氏が地元の人向けに地元を紹介を始めたことにある。それ以降、この活動は市内の他の地区にも広がり、現在では別府八湯の魅力ボランティアと一緒に歩いて発見する「別府八湯ウォーク」にまで発展している。現在では定期的に開催されている八湯ウォークは 10 箇所あり、地元住民のボランティアガイドが地元住民ならではのオススメスポットをゆっくり歩きながら案内するウォーキングツアーとして好評を博しており、観光客、市民、ボランティアの交流の場ともなっている。

「別府八湯竹瓦倶楽部」は「まち歩きウォーキングマップ」を作成し（ホームページでも公開）、従来は観光協会主体だったイベントを地区ごとに地元の人が主催するようにした。市内が一番冷え込んでいた時期であったため、初期の目的は観光客向けではなく、地元の人のために地元の人が案内するというものであった。団塊の世代の人等は出稼ぎに出ていて町の歴史や文化をよく知らなかったため、反響があった。平野氏は地元の博物館館長でもあり県職員でもあることから地域に詳しく、八湯竹瓦コース（約 5 時間）のウォークを主催して自ら案内した。当初の参加者は地元の人だけだったが、マスコミにとりあげられてから参加者が増え、現在は観光客中心になっている。大学教授の参加で新たな発見があったりして参加者も増えてきた。竹瓦地区のまち歩きが話題になったことで他の地区も追随し、今では 8 地区が良い意味で競い合うようになった。当初の竹瓦地区のウォークに対しては行政の支援はなかったが、新しく始める地区には市は支援している。

現在の「別府八湯ウォーク」には以下のコースがある。

(定期的に実施されているツアー)	(不定期に実施されるツアー)
竹瓦かいわい路地裏散歩	観海寺歴史ロマン街道
山の手レトロ散歩	城島エコウォーク
浜脇温泉時間旅行	明礬－柴石自然散策
鉄輪温泉ゆけむり散歩	亀川エコウォーク
夜の路地裏散歩	「織田作之助」散歩
	お色気 A 級散歩

以下、主なウォークを紹介する。

1) 「竹瓦界かいわい路地裏散歩」

1999 年に開始された散歩で、「竹瓦倶楽部」の活動の核をなすイベントである。明治・大正・昭和の雰囲気が残る路地裏には数多くの共同湯や老舗の店がある。こうした下町情緒が残るなつかしい路地裏を地元ガイドの案内で巡るツアーであり、毎月第 2・4 日曜日に行われている。「町づくりの第一歩は自分たちの町を知ることから」という趣旨で開始され、この活動がやがて「八湯ウォーク」として別府市内全域に広がった。



竹瓦路地裏散歩

2) 「鉄輪湯けむり散歩」

古くから湯治場として知られる別府鉄輪温泉のウォーク。路地のいたるところから湯けむりが立ち上がり、温泉情緒たっぷりの雰囲気味わえるツアーで、毎月第3日曜日に開催中である。



鉄輪温泉湯けむり地獄蒸し料理

3) 「夜の路地裏散歩」

かつて夜の竹瓦界限に流れていた「流し」のアコーディオンの音や人々の歌声を取り戻して若者に伝えようということで、流し歴 60 年以上の二人のベテラン「流しのハッチャン・ブンチャン」が湯の町別府の夜を案内してくれるイベントである。二人を先頭にして歌と演奏を聴きながら夜のネオン街を歩く。「湯のまちママさんガイド」も手伝い、彼女達の七五調路地裏ガイドも好評である。毎月毎月第 2・第 4 金曜日夜に開催している。



夜の路地裏散歩・流し演奏の復活

4) その他ウォークや探検隊

山の手レトロ散策(山の手地区)、竹瓦ゆうぐれ路地裏散歩、浜脇温泉セピア色散歩、人情の町亀川湯遊散策 子供達の為の路地裏散歩、お色気 A 級路地裏散歩、織田作之助ウォーク、アチチ探検隊、グレートバリアフリー探検隊、堀田湯の里・湯けむり散策等がある。

② 「別府八湯路地裏文化祭」

ウォーキングの広がりにより路地裏への関心が高まったことから、2000 年 10 月に「別府八湯路地裏文化祭」を開催した。竹瓦倶楽部主体の路地裏文化祭実行委員会が主催している。コピーは「10 日間だけはウラガオモテノカカン」である。文化祭では、路上食堂、路上写真展など、まちへの理解を深めてもらうためのさまざまなイベントを行った。「文化祭」は様々な形で発展しており、来訪者へのサービスは「湯の町ママさんガイド」等の地区の人々がボランティアで担っている。

③「ゆかた de ピンポン大会」

人々の触れ合いを促すことを目的として、浴衣姿で卓球をする「ゆかた de ピンポン大会」(ゆかた de ピンポン実行委員会主催)を2000年7月に開催した。翌年以降も毎年開催されている。



ゆかた de ピンポン

④「別府八湯温泉道」

2001年3月にスタンプラリー「別府八湯温泉道」を実施した。決められた温泉施設のすべてに入湯すると名人位が授けられるというラリーである。翌年以降も規模を拡大しつつ続けられている。

「別府八湯温泉道」には次の「二流派」がある。

「表泉家」 88箇所を回りスタンプを押しながら湯の道を極めていくコース

「裏泉家」 日頃は入浴困難な湯を中心に、住民湯志が案内して湯の道を極めるコース

「表泉家」は入門が極めて容易である。市内各書店で販売されている「別府八湯温泉本」を購入し、それに付いている SPAPORT という「表泉券」を使いながら各温泉を回ってスタンプを押し、その数に応じて段位が授けられる。七段以上は「泉生」となり、各旅館ホテルの湯が無料になる。全て回ると「湯名人」になり、竹瓦温泉の「温泉殿堂」に肖像写真が永年展示される。段位に応じてタオルが与えられるが、名人のタオルは黒字に金文字刺繍という豪華なものである。

「裏泉家」は入門が極めて困難である。入門資格者は、「表泉家」の高段者(7段以上)に限られる。現在では、温泉道名人の数も千人近くに達している。

⑤「別府八湯温泉泊覧会」(ハットウ・オンパク)

2001年10月に「別府八湯温泉泊覧会(ハットウ・オンパク)」を別府八湯温泉泊覧会実行委員会が開催した。別府市旅館ホテル組合連合会が主催となり、別府八湯竹瓦倶楽部、別府路地裏文化祭実行委員会、別府八湯温泉道実行委員会等が共催となった。第1回開催によって厚生労働大臣賞を受賞した。翌年以降も開催が続けられており、人々の交流の場ともなっている。2006年までに10回開催されており、人づくりや中小企業の支援を行いながら様々なイベントを実施し多くの人が参加している。最近は「函館オンパク」のように県外にもイベントノウハウの提供を行なっている。オンパクの目的は、別府八湯地域において温泉を核としたウェルネス産業を起こすことであり、以下を実現したいとしている。

- ・ 地域の資源(温泉、自然環境、町並み、人材など)を活かした多彩なプログラムの提供を通じて、各種のサービス産業が成長すること
- ・ オンパクに参加する事で住民が健康で前向きな暮らし(ウェルネスライフ)を送る事ができ、生活の質(QOL)の向上につながる事
- ・ 旅行者がオンパクに参加し、各種の体験や交流の機会を得る事で別府八湯のファンになっていただき、リピート化や長期滞在化を実現する事

オンパクのプログラムは多彩かつ多数であり、例えば、脳トレ、食のプログラム、茶会、和菓子の会、茶店、料理教室、ワインマナー、建物訪問、音楽会、映画会、句会、ヒーリング、姿勢矯正、ストレッチ、フィジオセラピー、フラメンコ、フラダンス、社交ダンス、農家 de ランチ、どっと混む、撮影会、陶絵付け、人形劇、トンボ玉、着物着付け、アロマプレッシャー、ダイエット、マッサージ等々がある。2005年度は経済産業省の補助金4000万円で10～12月の3ヶ月間開催した。

(2)「泉都別府まちづくり支援事業」

市はまちづくりグループを支援する制度として2003年度から「泉都別府まちづくり支援事業」を設けている。事業費の5分の4を補助するもので、1グループあたり30万円が上限になっている(総額約500万円)。書類審査および公開プレゼンテーションで、「熱意」、「公益性」、「発展性」などをポイントに審査し、獲得した得点に沿って補助額を決定している。審査委員会(4大学の学識経験者ら8人による)は公開しており、市は委員には入っていない。補助金500万円に対し地元では3,000万円以上使っているため、まちづくりを促進する効果が大変高い施策になっている。第3回となった2005年度は5月にプレゼンテーションが行われ、6月に応募38グループ(新規18グループ)の中から27グループが選ばれた(総額480万円、他に「あと一歩賞」が2グループ各3万円)。2006年3月に27グループから公開で成果報告が行われた。2006年からは名称を「泉都ツーリズム支援事業」に変更し、金額を600万円に増額して実施している。この事業により、まちづくり団体が活性化し様々な新しい取組みが行なわれてきている。

2005年度の選出グループは次表のとおりである。「あと一歩賞」(3万円)は、「仲間通り会」(仲間通り発見交流活性化)及び「ビーチ展」(【砂浜手ぬぐい展】及び【竹細工ライトアップ】)であった。

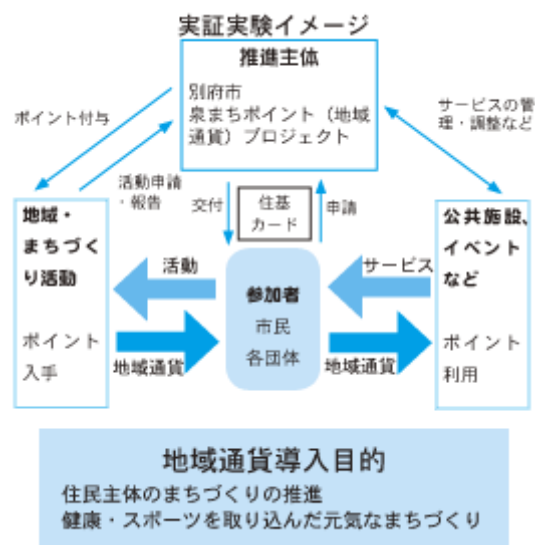
2005年度 泉都別府まちづくり支援事業補助対象事業

団体名	事業名	補助決定額(円)
1 内成の「棚田とむらづくり」を考える会	棚田とむらづくり	250,000
2 ゆかたdeピンポン実行委員会	ゆかたdeピンポン	228,000
3 別府留学生援護会	湯のまち文化国際交流	226,000
4 一遍上人探求会	鉄輪むし湯の学術調査及び報告冊子作成	222,000
5 別府商工会議所青年部	チッカマウガツリ一点灯式	220,000
6 巧匠竹学会	竹で街をやわらかに	209,000
7 大分民放クラブ別府支部	地域交流「文学散歩」語り部朗読会	137,000
8 竹瓦ゆうぐれ散策実行委員会	竹瓦ゆうぐれ散策	204,000
9 NPO法人鉄輪湯けむり倶楽部	鉄輪温泉「飲泉場設置」	204,000
10 鉄輪愛酎会	俳句を通した鉄輪の町づくり	122,000
11 隠柳保存会	柳・隠山地区地域活性化	201,000
12 NPO 法人宵酔女まつり	別府宵酔女サンバ普及	199,000
13 NPO 法人自立支援センターおおい た	バリアフリー探検調査とホームページによる情報公開	170,000
14 NPO 法人福祉の森	地域福祉サロンあい・あい交流	194,000
15 別府八湯亀川温泉「亀カメ倶楽部」	亀川のまちづくり、まちおこし	191,000
16 認可外保育所ちびっこの会	ちびっこの会別府八湯こども花いっぱい運動	155,000
17 別府親と子の劇場	人形劇上演と読み聞かせ研修	68,000
18 秋葉通り会	秋葉清め湯三社参り	183,000
19 別府八湯浜脇倶楽部	浜脇ウォーキングマップ作成	184,000
20 太陽の家むぎの会	泉都別府卓球バレー普及	177,000
21 NPO 法人グリーンライフ倶楽部	別府民謡の整理編纂・観光情報メディアの作成	171,000
22 コミュニケーションプロジェクト実行 委員会	「見て発見！遊んで体験 別府こどもフェスティバル」	161,000
23 別府南部レトロクラブ	別府南部レトロモニメント設置	155,000
24 別府古民家町づくりの会	古民家町づくり	152,000
25 BEPPU PROJECT	写真集「PILOT #1」(パイロット)製作	146,000
26 町の湯協議会	路地裏温泉めぐりと飲泉場の設置	139,000
27 NPO 法人わらべ	高齢者等地域交流会並びに慰問	72,000
計		4,740,000

(資料:都まちづくりネットワークホームページより)

(3) 地域通貨「泉都(セント)」

市の「地域通貨を活用したまちづくり活動と ONSEN・健康ライフの促進」計画が地域再生法に基づく第1回認定地域再生計画として認定された(2005年7月)。この計画の目的は、市民主体のまちづくり活動の支援及び地域資源を活かす健康・スポーツを取り込んだ元気なまちづくりの推進にある。この計画に基づき、住民基本台帳カード等を使った地域通貨「泉都(セント)」が導入された(国の地域通貨モデルシステム導入支援の対象)。「泉都(セント)」は、まちづくり活動やボランティア活動を行った人に支払われ、公共施設(温泉、スポーツ施設等)やまちづくりイベントなどを使うことができる。「泉都(セント)」は、世界的な「湯のまち別府」すなわち国際都市「泉都」と国際通貨「cent」をかけて命名されたものである。



地域通貨のシステム (資料:別府市)

なお、別府には「湯路(ユーロ)」という地域通貨もある。これは、「別府八湯竹瓦倶楽部」の「アチチ探検隊」が運営する「アチチ中央銀行」が管理・発行しているものである。同隊は、「別府温泉の湯は熱い」との指摘を受けて立ち上がり、各温泉の温度を計って回る活動を展開していたが、熱さが日に日に増したことから「アチチ敗北宣言」を出して「湯路(ユーロ)」方面に転進したとのことである。現在では「泉都」と「湯路」は交換可能になっており、2006年度には阿蘇市の地域通貨とも交換可能にしてツーリズムの範囲を拡大していく予定があるようである。

(4) 「e-宝物」

2005年12月1日から湯のまち別府「e-宝物」の情報を市が募集している(誰もがホームページから応募できる)。これは、歴史的建造物などの文化財から、身近にある別府とゆかりのある骨董品などまで、「別府らしい物」「別府とゆかりのある物」を「別府の新しい宝物」として発見し、その宝物を市のホームページで紹介するものである。現在、データベース作成に向けて市のHPで公開中である。

「e-宝物」は現在も募集中であるが、市のホームページには既に多数の「e-宝物」が掲載されている。カテゴリーが自然、建物、温泉、まちなみ、歴史、文化、特産品・民芸品、人、グルメ、その

他に別れており、例えば「人」のカテゴリーには、「湯のまちママさんガイド」「はっちゃんぶんちゃん」が登録されている。「まちなみ」のカテゴリーには、「東別府の歩行者トンネル」「亀川界限」「浜脇の路地裏」「展望の地(鉄輪)」「鉄輪湯けむり風景」など、渋い風景などが登録されている。

(5) 「ONSEN ツーリズム」

① 戦略の立案

別府市が現在推進している「ONSEN ツーリズム」の考え方は、2004年6月21日の第1回認定を受けた別府市の地域再生計画で打ち出された概念である(計画期間:2004年から約5年間)。計画名称は「世界の健康回復都市「別府」 きれい・元気づくり」であり、副題が「ONSEN・ツーリズム」となっていた。その概念は次のように説明されている。

最近、民間主導で別府八湯温泉泊覧会やアルゲリッチ音楽祭、別府八湯ウォーク等の新しい取組みが進み、これを「ONSEN・ツーリズム」と定義し、「健康サービス」「スポーツ・コンベンション誘致」「国際化・アジアとの連携」「夜のにぎわい拠点づくり」の4つに分類した上で、市民が住みやすいまちづくりを進めながら産・学・官が協働して地域経済活性化や雇用の確保を図る。

この表現にあるように、別府市では「ONSEN ツーリズム」の考えに至るまでにいろいろな取組みが行われてきた。例えば、リピーターを増やすために、個人に対しては、従来の「ものを観る観光」ではなく健康や美容をPRしてきた。団体に対してはスポーツ大会、音楽祭等への誘導を図ってきた。具体的には、健康サービス産業の活性化(ガイドマップにエステ店を掲載するなど)、プロバスケットチーム等の誘致、別府アリーナにスポーツ大会誘致、参加チームに宿泊だけでなく温泉やスポーツマッサージも利用してもらうための工夫、韓国からのゴルフ客の誘致、アルゲリッチ音楽祭の開催(8回開催)、医学会開催などに取り組んできた。また、立命館アジア太平洋大学(APU)は学生4,000人の40%が約80カ国から来ている留学生であり、前半2年間は寮生活をし、後半2年間は街なかに住むようになっている。そのため、留学生がONSENをアジアに広めることが期待されている。2005年8月には国際通りにアジアの店が5店舗開店したが、APUの卒業生が経営する店舗もあり、市の国際化が進んでいる。市は韓国や中国からの修学旅行も誘致している。これらの諸活動に先に述べたイベント等が加わって活動の幅が広がった先に「ONSEN ツーリズム」の考えが出てきたと言える。

地域再生計画は、①健康サービス産業の活性化、②スポーツ・コンベンションによる活性化、③国際化・アジアとの連携による活性化、④夜のにぎわい拠点づくりによる活性化を柱としていたが、これをさらに具体化して戦略として提言したのが「別府観光推進戦略会議」が2004年9月に出した「別府観光推進策に関する答申 提言書」である。

同提言書では、「歴史風土を生かしたまちづくり」を基本とした総合的な取組みを、別府の固有の資源である温泉から取って「ONSEN ツーリズム」としている。別府が世界に誇れる資源である「温泉」を基本戦略の柱とし、その表現をわが国特有の湯治文化や歴史背景を盛り込んだ「ONSEN」と

という言葉で表現し、それを世界にアピールするために「ONSEN ツーリズム」をキーワードとするというのが提言書の基本的な考え方である。そして以下の5つの目標を設定している。

- ① 「温泉保養都市」としての世界のオンリーワン・ブランドをめざす
- ② 固有の歴史を大切にしつつ国際性豊かな文化を持つ都市をめざす
- ③ 湯治文化に加えて健康づくりや癒しのための豊かな福祉温泉地をめざす
- ④ 多様な魅力のある美しい海岸線と緑に囲まれた都市をめざす
- ⑤ 「まちづくり」を基盤とした ONSEN ツーリズムの実現

この最後の点に関しては、「今までのような観光施設整備や宣伝広告活動ではなく、「まちづくり運動」の推進により別府の街が住民にとって「歩いて楽しい街、美しく住みやすい街、歴史と文化を誇れる街」に変化していくことが必要である」と説明されている。そして、「住民にとって「住みやすい街」になることは観光客にとっても「滞在したくなる街、また訪れたくなる街」になることであり、その結果として経済効果が生まれ、また住民と観光客との交流によって街が活性化する相乗効果が生まれる」としている。

「ONSEN ツーリズム」の基本戦略は次の5つの柱から成る。

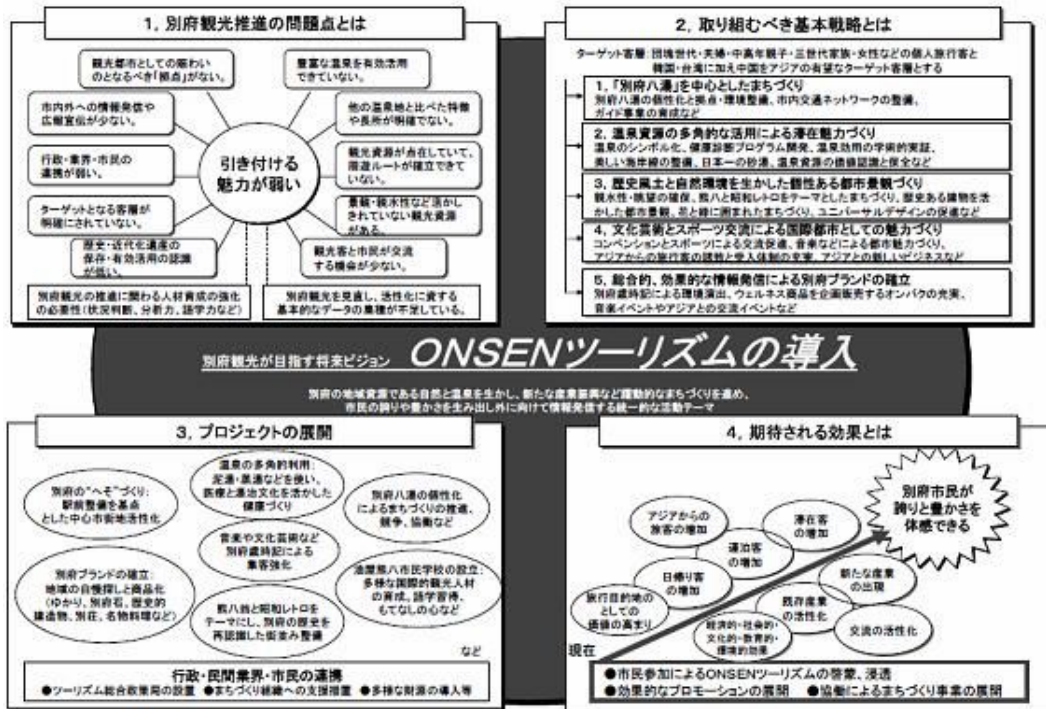
- ① 別府八湯の個性化と拠点整備・環境整備
 - ・ 別府八湯の個性化と拠点整備・環境整備
 - ・ 別府八湯を自由に移動できる市内交通ネットワークの整備
 - ・ 様々なガイドツアー事業の育成による八湯巡りの促進
- ② 温泉資源の多角的な活用による滞在魅力づくり
 - ・ 温泉資源の多角的な活用と効果的な表現
 - ・ 温泉を活用したウェルネス産業の開発と商品化
 - ・ 美しい海岸線と海浜砂湯の復元
 - ・ 温泉資源の価値認識と保全意識の育成
- ③ 歴史風土と自然環境を生かした個性ある都市景観づくり
 - ・ 海への親水性・眺望を生かした景観づくり
 - ・ 「油屋熊八と大正ロマン・昭和レトロ」をテーマとしたまちづくり
 - ・ 「別府温泉・鉄輪温泉」を中心とした街並み再生と歴史的建物の有効活用
 - ・ 快適で美しいまちづくりのためのガイドラインづくりと住民活動への支援
 - ・ 高齢者が住みやすく、訪れやすいまちづくり
- ④ 文化芸術とスポーツ交流による国際都市としての魅力づくり
 - ・ コンベンションとスポーツによる交流促進
 - ・ 音楽とエンターテインメントによる都市魅力づくり
 - ・ アジアを代表する温泉として、アジアからの個人旅行客の誘致と受入体制の充実
 - ・ アジア諸国との交流による新しいビジネス、新しい文化の創造
 - ・ 国際的な視点によるマーケティング、経営ノウハウの導入
- ⑤ 総合的、効果的な情報発信による別府ブランドの確立

- ・ 別府の歴史や温泉文化を統一された世界観として総合的に演出
- ・ 温泉の付加価値を高めるウェルネス産業を表現する「オンパク」の充実
- ・ 国際交流と新しい文化芸術創造の場としてフェスティバルイベントの充実

これらの基本戦略を具体的に表現する戦術は次の2点に集約されている。

- ① 「別府八湯を歩いて楽しめるまちづくり」を実施する。具体的には別府市の「へそ・拠点」を作り、そこから「街歩きルート」に沿って別府の歴史や温泉文化の表現を行いつつ、徐々に線から面へと街並み整備を拡大していく。
- ② 温泉資源の多角的な活用策としてウェルネス産業を起業・育成し、市民の健康づくり、観光客の長期滞在化、リピーター化に役立てていく。また情報発信と誘客戦術としては、別府の歴史文化を市民が再認識し、新しい国際文化と交流のきっかけとするため、別府歳時記としての環境演出を年間を通じて実施する。この別府歳時記のなかで音楽をテーマとしたまちづくりも実施していく。

このような考えの下で、具体的なプロジェクトとしては、緊急プロジェクト(1~2年以内)として別府駅前「温泉広場」整備、昭和レトロタウンづくり(中浜筋周辺)等を、中期プロジェクト(3~5年以内)として景観地区指定による歴史的街並みの保全、温泉のくらし文化を表現する「まちなか温泉ミュージアム」、歴史的建物の活用によるまちづくり拠点・路地商業店舗の整備等を、長期プロジェクト(5~20年以内)としてロングステイのための滞在メニュー開発と定住の誘致、10号線の一部地中化等による市街地と海浜公園の一体化、駅前通りから青山通りへの道路貫通による山の手と海浜部の一体化を掲げている。



(資料)別府観光推進戦略会議「別府観光推進策に関する答申提言」(2004年9月)

② まちづくり交付金を活用した景観整備等

別府市には古くからのぬくもりある空間が残されているが、それらは十分に手入れされてきているとは言えなかった。そこで、「別府八湯竹瓦倶楽部」が 1999 年にフォーラムを開催し、竹瓦温泉横丁の石畳化や案内板整備などの必要性を議論した。それを契機に「竹瓦デザイン会議」が 2000 年に誕生して竹瓦温泉横丁のデザインの検討を行った。同会議は日本一古いといわれる木製のアーケード保存活動や横丁通りの花いっぱい運動等を展開しながら、地元通り会のまちづくり気運を盛り上げる等の活動を行なっている(横丁には竹細工を使ったアーケードや喫茶店が出来た)。

その後、別府観光推進戦略会議の提言の中で景観形成の重要性が改めて強調されたことから、別府市は、まちづくり交付金を活用して景観整備等を行うこととした。現在、別府市では別府駅前周辺地区と鉄輪温泉地区の 2 地区でまちづくり交付金を活用した事業が進められている。

別府駅周辺地区(91ha)に対しては 2005(平成 17)年度以降「まちづくり交付金」が交付されているが(交付期間:平成 17 年度～平成 20 年度)、同地区の「都市再生整備計画」には以下の整備方針が掲げられている。

- ① 別府の玄関口としてふさわしい景観整備(駅舎内リニューアル、別府駅前広場の整備)
- ② 民間活力の効果的活用(JR 九州の駅前開発等にあわせて市が観光モニュメント等を設置)
- ③ 歩いて楽しめるまちづくり(季節感、時代背景、音楽、エンターテイメント等の環境演出)

2005 年 12 月には②に基づき別府駅東口駅前広場に温泉のモニュメント「“ほっと”する空間」が完成した(かけ流しの温泉で手を浸せる“湯だまり”がある)。また、同東口に雨よけのシェルターが設置された。現在は竹瓦温泉の改修工事等が行われている。

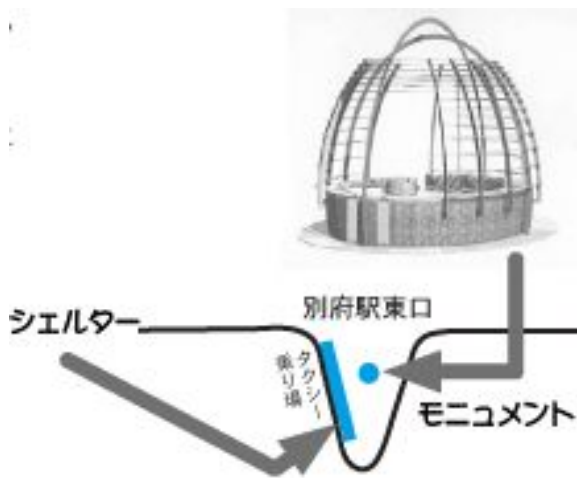


別府駅周辺地区の都市再生整備計画概要図 (資料:別府市)

別府駅周辺地区 都市再生整備計画

地区名	別府駅周辺地区
計画面積	91ha
計画の区域	北浜 1,2,3 丁目、駅前町、駅前本町、中央町、北的ヶ浜町、南的ヶ浜町、元町、田の湯町、野口中町、野口元町
交付期間	平成 17 年度～平成 20 年度
目標	<p>大目標： 中心市街地の魅力と活力を向上させることにより、全体の活性化を図る。</p> <p>目標1： JR別府駅を中心とした一体的な整備と魅力的な都市空間の形成。</p> <p>目標2： 別府市のへそづくり。 (別府駅前の「広場」整備による中心市街地活性化)</p>
目標を達成するための事業	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 地域生活基盤施設 ▪ 高質空間形成施設 ▪ 地域創造支援事業 ▪ まちづくり活動推進事業
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 別府駅周辺地区の観光客数 ▪ 地元での買物購入率の向上 ▪ 海門寺温泉の入場者数
計画区域の整備方針	<p>○別府の玄関口としてふさわしい景観整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 老朽化した駅舎内のリニューアルを図り、公共交通機関利用者の増加、施設内商業空間の魅力の向上を図る。 ▪ 別府駅駅前広場を整備することにより、別府の玄関口としてふさわしい景観を創出する。 <p>○民間活力の効果的活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ JR九州が中心となって実施する別府駅前開発、コンコース改装、別府駅名店街の改装に併せ、別府市としても駅前広場内に観光モニュメント、情報板、駐輪場等を設置することにより、別府駅周辺環境改善や利便性の向上に寄与し、観光都市別府のイメージアップにつながる。 <p>○別府駅周辺地区において観光客と住民とのふれあい</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 別府駅周辺の数少ない憩いの場であり、また駅前観光ルートの一部である海門寺温泉の改築及び竹瓦温泉の改修を行うことにより、地元住民はもとより観光客の施設使用頻度も増加し、コミュニティの場を提供できる。 <p>○歩いて楽しめるまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 季節感、時代背景、音楽やエンターテイメント等の環境演出により、歴史風土を生かしたまちづくりを行い、中心市街地の活性化を図る。

(資料) 別府市ホームページ



モニュメントの説明

このモニュメントは、別府の伝統工芸品である竹細工の巨大なかごをイメージしたものです。

土台には原産の別府石を使っており、湯だまりには別府の象徴である掛け流しの温泉が湧いています。

泉質は単純温泉で、湯だまり内は手湯体験ができ、さらに夜にはライトアップされた光が季節や時間とともに変化します。

平成 17 年 12 月 24 日 完成
別府市 ONSEN ツーリズム 局



JR 別府駅前モニュメント“ほっと”する空間



竹瓦温泉(まちづくり交付金で屋根の改修中)



海門寺温泉

鉄輪温泉地区 都市再生整備計画

地区名	鉄輪温泉地区
計画面積	24ha
計画の区域	風呂本、井田の全部と北中、鉄輪上、御幸、鉄輪東の一部
交付期間	平成 17 年度～平成 21 年度
目標	<p>大目標：ふれあいと情緒ある温泉街の賑わいを再生し、うるおいに満ちた湯けむりたなびく交流型観光地の創造。</p> <p>目標1：人的交流を活発化し賑わいのある観光拠点を整備する。</p> <p>目標2：地域特性を活かした景観形成に取り組み、街全体が観光資源となる環境を整備する。</p> <p>目標3：来訪者が安心して路地裏、湯けむり散策が楽しめる環境を整備する。</p>
目標を達成するための事業	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 地域生活基盤施設(ポケットパーク・情報板) ▪ 高質空間形成施設(市道美装化・街路灯) ▪ 高次都市施設(観光交流センター) ▪ 地域創造支援事業(鉄輪むし湯温泉・景観形成計画書策定温泉管共同BOX・温泉遺産の復活) ▪ まちづくり活動推進事業(ポスター等によるPR戦略) ▪ 事業活用調査(市民意識調査)
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 鉄輪温泉地区の観光客数 ▪ 湯けむり散歩の参加者数 ▪ むし湯温泉の入湯者数 ▪ 通りの歩行者数
計画区域の整備方針	<p>○情緒に満ちた湯けむり散歩のできる街</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 昼の湯けむりや夜のライトアップ湯けむりを堪能できるよう順路整備、道路整備を行う。 ▪ メインストリート及び露地を昔の情緒と賑わいのある温泉街に再生するため、魅力ある道路景観の整備を行う。 ▪ 各通り名や、市営、区営温泉入り順路サインを整備し、観光客に馴染み易い道路整備をする。 ▪ 洗濯場、熱の湯温泉の源泉跡を整備し、NPO法人鉄輪湯けむり散歩のコースに組み入れ後世に伝えて行く。 <p>○観光客と住民とのふれあい</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 市営温泉建替えに伴い観光交流センターを併設し観光客と地元との交流による新しい観光資源として活用したい。 ▪ 鉄輪温泉の中心である温泉山永福寺、渋ノ湯、元湯一帯をベンチや花壇、樹木等で修景し、人々が集まりふれあいができる空間としてポケットパークの整備をする。 ▪ 湯けむり散歩の休憩所として、また住民や観光客の憩いの場として鉄輪温泉の景観にマッチした公園整備をする。

	<p>○湯けむり景観の保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 本市のシンボルであり、また温泉情緒を醸し出す大切な観光資源である湯けむり景観を保全、育成するため地域住民と協働で景観に配慮したまちづくりを行う。 <p>○温泉管の維持管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 道路内の占用物件(市、個人の温泉管)の維持管理を改善する目的で、温泉管共同BOXの整備を図りたい。 <p>○市営温泉のリニューアル</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 鉄輪温泉地区を代表する鉄輪むし湯を建替え入湯客の増加を目的とし温泉場の賑わいを再生する。 <p>○PR戦略</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 鉄輪温泉地区での本事業計画等を市民に周知し、鉄輪むし湯温泉と事業完成時に全国へ向けて観光PRを兼ね交付金制度の効果発信したい。
--	---

(資料) 別府市ホームページ



鉄輪温泉蒸し湯 (リニューアル中)



鉄輪いで湯坂の道路美装化

5. 特徴的手法

地域の人々が自ら地域の資源の価値を再認識し、主体的に身の回りのできることから活動を積み重ね、それがまち全体の活動へと広がってきていることが特徴的である。市民の活動のひとつひとつは小さなものではあるが、それらが有機的に結び付いて「ONSEN ツーリズム」という大きな戦略に発展している。市もそれらの個々の活動を尊重してそれらを支援をする立場をとっている。ハード整備も大掛かりなものよりも景観整備、建築物修復等のきめ細かな事業を大切にしており、全体としてまちの記憶を大切に扱うまちづくりになっている。

6. 課題

都市再生整備計画には評価指標として、別府駅周辺地区の観光客数、地元での買物購入率の向上、海門寺温泉の入場者数が掲げられているが、それらを同時に達成していくためには、まちの人々や観光客等との交流をさらに深めていく取り組みが継続して求められる。別府市には今後、定年後の移住者が増えることも期待され、そのサポートも重要な課題となっている。

(参考・引用文献)

別府市ホームページ

浦達雄「別府温泉における新しい観光の動向 ―別府八湯竹瓦倶楽部の活動を中心として―」

(総合観光学会『総合観光研究 第1号』(2002年11月))